

経済社会における 会計・監査の意義と役割

琉球大学
観光産業科学部
2014年12月19日

公認会計士・監査審査会
常勤委員 廣本 敏郎

本日の構成

- 公認会計士の使命と資格
- 公認会計士の役割
 - 会計の専門家として
 - 企業経営（市場経済）と会計
 - 会計・監査の専門家として
 - 私的な会計から公的な会計へ
- むすび

公認会計士の使命

公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命とする。

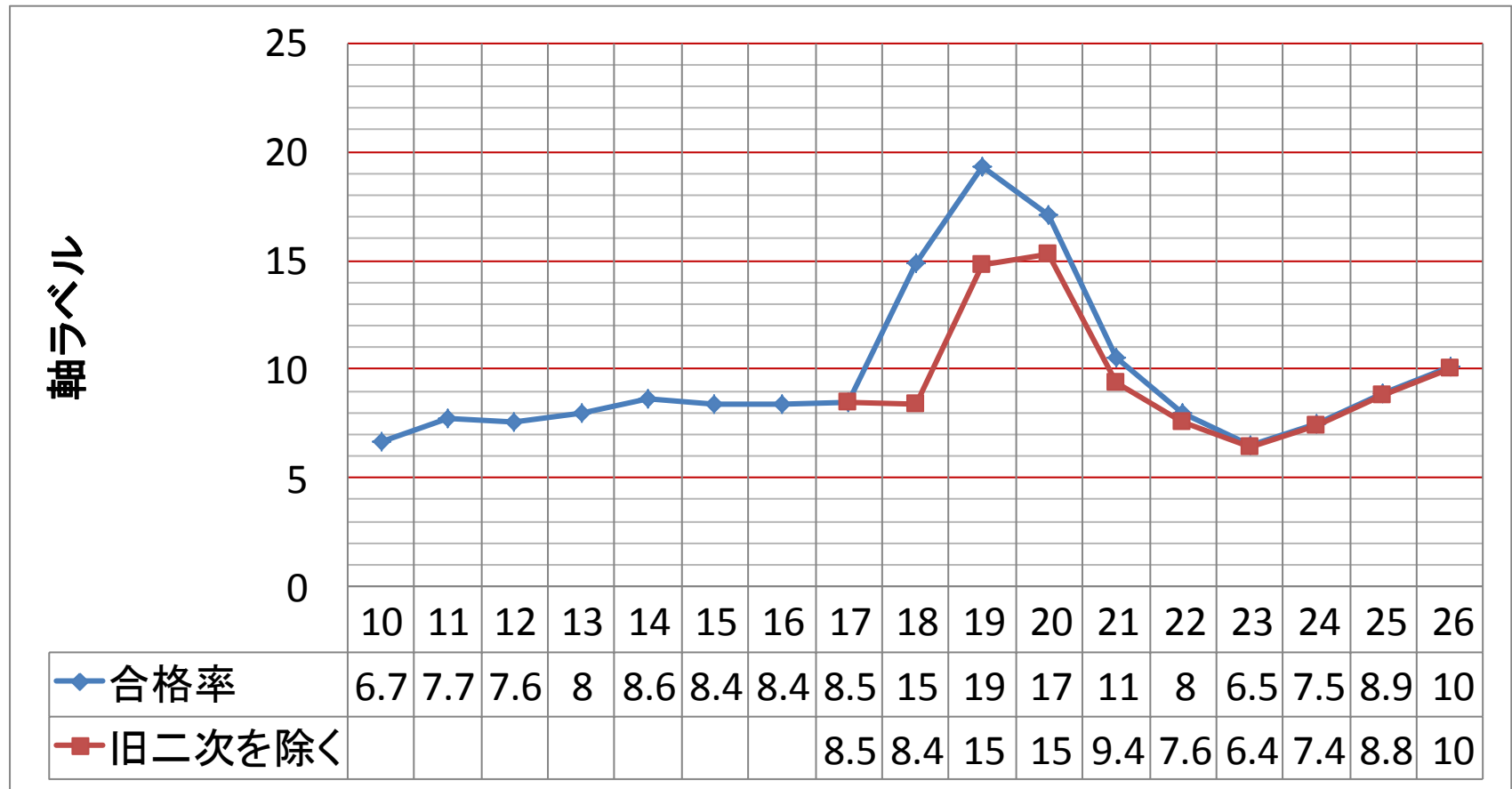
(『公認会計士法』第1条)

公認会計士の資格

公認会計士試験に合格した者であって、第十五条第一項に規定する業務補助等の期間が二年以上であり、かつ、第十六条第一項に規定する実務補習を修了し同条第七項の規定による内閣総理大臣の確認を受けた者は、公認会計士となる資格を有する。

(『公認会計士法』第3条)

合格率（平成10年以降）



沖縄総合事務局管内の合格者

年度	合格者数	全体の合格率
2014年	1名	10.0%
2013年	0名	8.8%
2012年	3名	7.4%
2011年	0名	6.4%
2010年	4名	7.6%
2009年	6名	9.4%
2008年	5名	15.3%
2007年	6名	14.8%
2006年	5名	8.4%
2005年（旧試験）	2名	8.5%

会計の専門家として 企業経営（市場経済）と会計

企業経営のために簿記会計が必要

- 企業の経営がうまくいっているかどうかを、常に反省し、改善することが必要。
 - そのためには、企業経営の成功と失敗を測定する必要がある。重要な測定尺度は、企業の儲け（利益）
 - 競争相手が黒字（利益）なのに、わが社が赤字（損失）なら、経営の改善が必要な証拠。
 - 損失がかさめば財産が減少して倒産の危機が迫り、雇用も維持できない。利益の獲得は、企業経営にとって不可欠の前提。

（神戸大学 桜井教授の夢ナビライブ2012講義より）。

人類の共有財産としての複式簿記

～複式簿記を巡る金言～

- 商売をやってゆくのに、広い視野を与えてくれるのは、複式簿記による整理だ。整理されていればいつでも全体が見渡される。細かいことでまごまごする必要がなくなる。複式簿記が商人に与えてくれる利益は計り知れない。
- 人間の精神が生んだ最高の発明の1つだね。立派な経営者は誰でも経営に複式簿記を取り入れるべきなんだ。

(ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』より)。

人類の共有財産としての複式簿記（続）

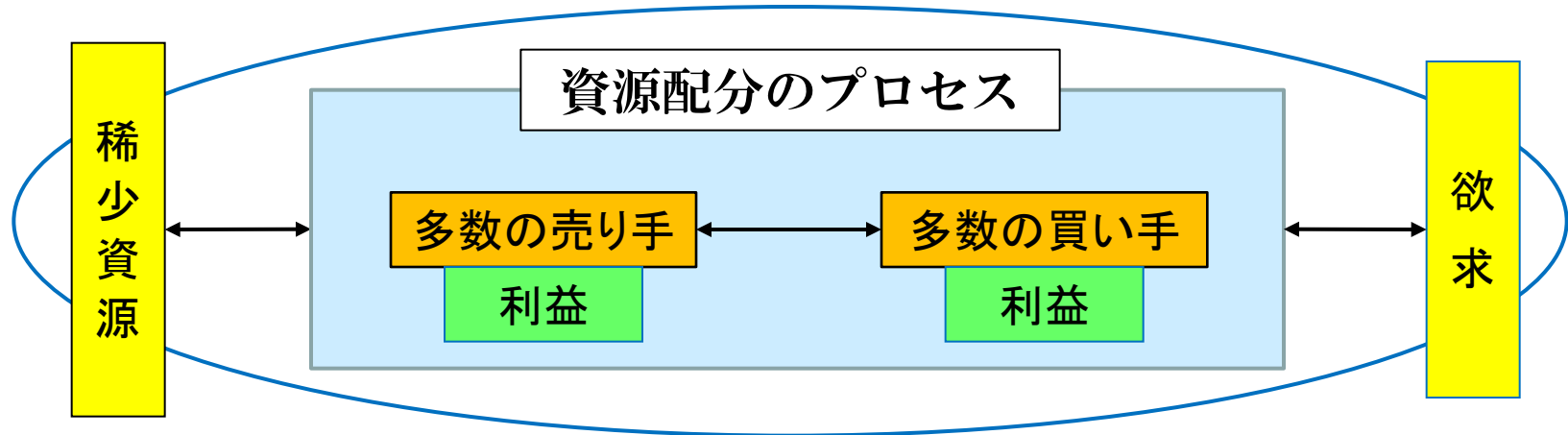
～複式簿記を巡る金言～

- 利潤動機や利己心についてもまたしかり。実は資本主義以前の人も資本主義時代の人に劣らず「獲得欲」に燃えていた。たとえば農奴にせよ武家諸侯にせよ、みな全身全霊の動物的エネルギーを傾けて自己の利益を追求した。とはいえ資本主義は…これに新たなる鋭さを加えた。
- 資本主義は、貨幣単位を計算単位にまで高める。すなわち資本主義的行動は、貨幣単位を合理的な費用・利潤計算の用具に転化せしめる。複式簿記こそは、その高くそびえる記念塔である。

（シュンペーター『資本主義・社会主義・民主主義』より）

市場経済の制度

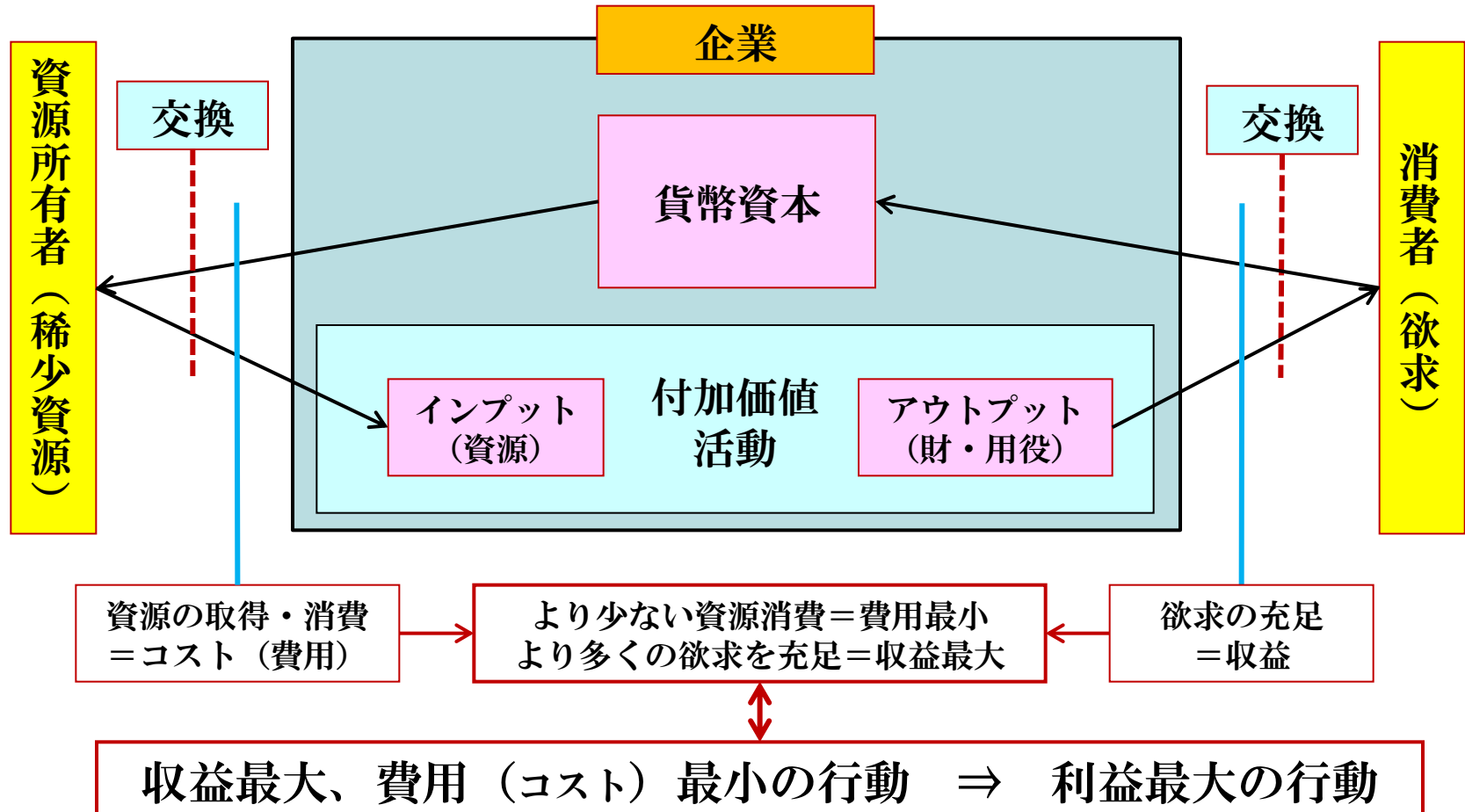
—市場参加者の自由競争—



よい財・サービスを求める買い手と、その財・サービスの売り手は、それぞれの私欲がぶつかって市場で競合し合い、その競争の中から人々が欲するよい財・サービスを安く供給しえた企業が生き残っていく。

この基本的な論点を分析的に明らかにしたのがアダム・スミスの経済学であり、それが自由主義経済の基盤となった。

会計による企業活動の見える化



会計・監査の専門家として 私的な会計から公的な会計へ

企業経営の公的性格

- 大企業の場合には特にそうであるが、出資者が唯一の利害関係者であるというわけではない。
 - － 大会社は準公共的な制度であり、大規模企業の行動を通じて社会的協力を遂行する機構である。大会社の業務活動は、直接の経営者や株主達の関心事たるにとどまらず、会社経営の責任は、広く各種の方向に行き渡っている。

私的な会計から公的な会計へ

- かくして、信頼し得る適切な情報を提供するという会計の義務は、公衆の利害に結びつき、会計は公的な性格を帯びてきた。
 - 経営者は、その公的な責任を自覚することを要求されると共に、会計基準を発展せしめ、また利用することが必要となってくる。

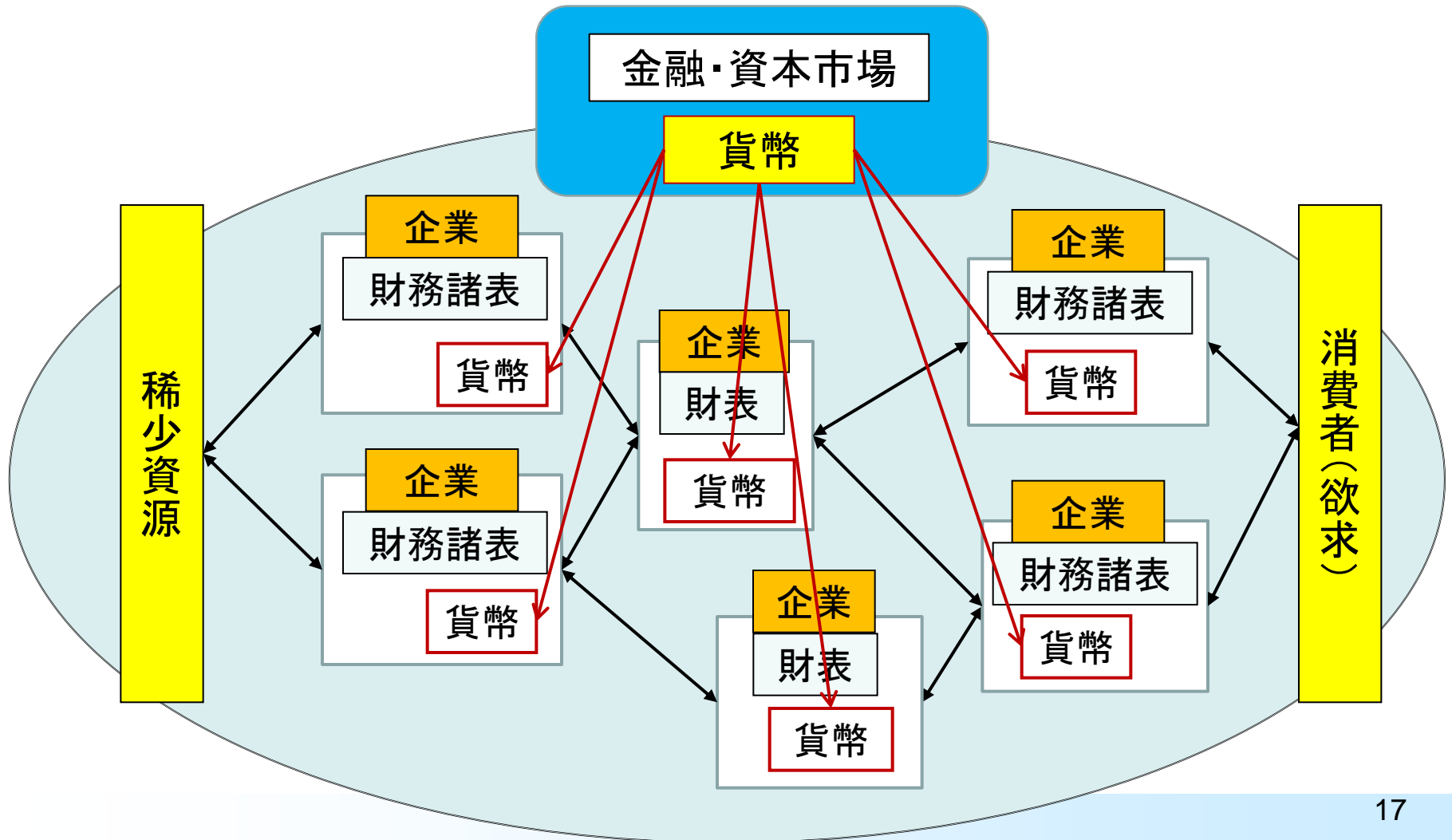
公認会計士の責任

- 会計の公的な義務が認識されているかどうかを見究めるといふ役割の多くは、公認会計士の肩にかかっている。
 - なぜなら、出資者その他の利害を会社経営者に対して代表すると同時に、すべての利害関係者たちに対し経営者を代表することは、公認会計士の本来の機能だからである。
- この二重の責任を果たすため、公認会計士は、広い理解と鋭い正義感、そして高度の独立性を備えなければならない。

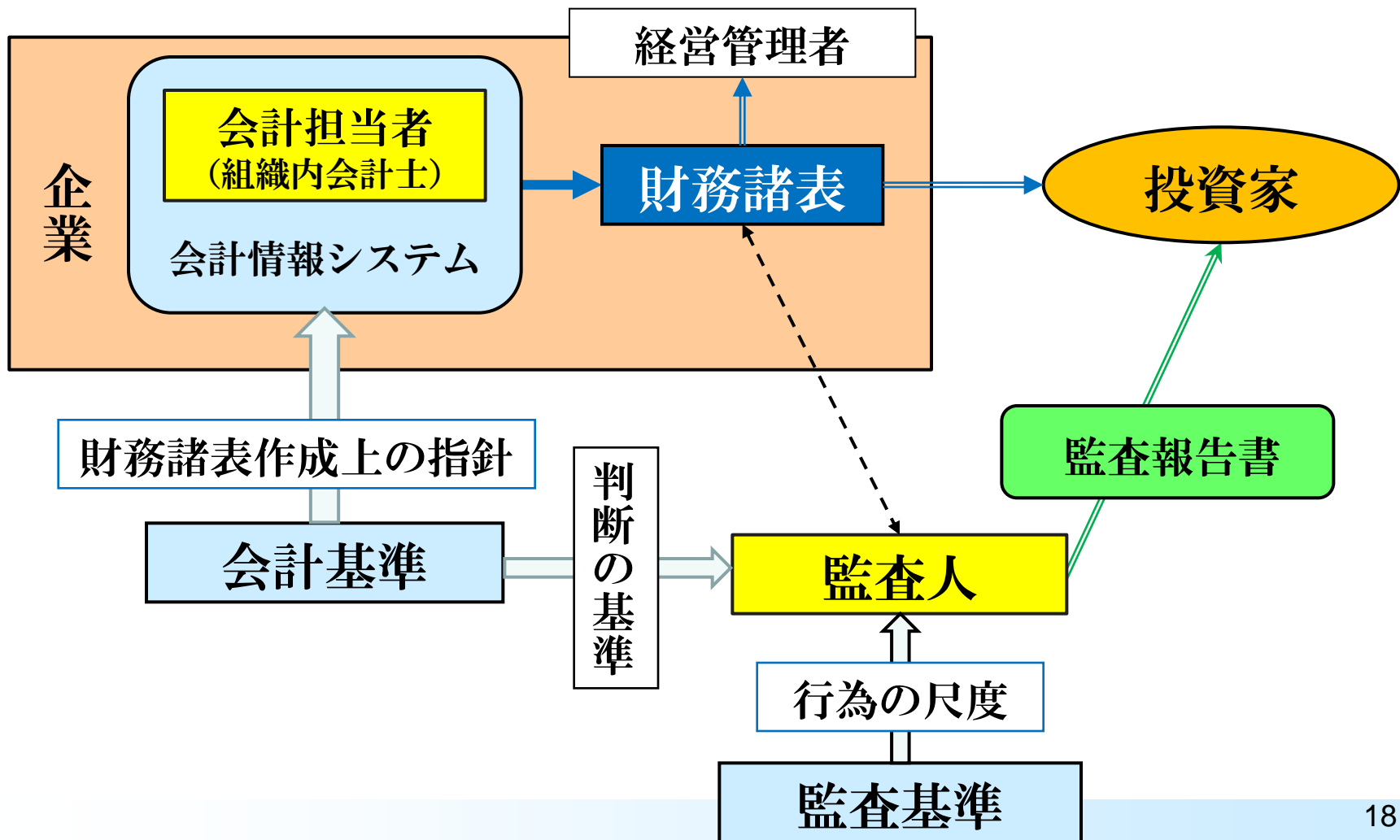
(ペイトン＝リトルトン『会社会計基準序説』1-6頁)

国民経済における効率的な資金配分

～実体経済を支える金融・資本市場～



財務諸表の信頼性確保と公認会計士



むすび

皆さんへのメッセージ

- 会計・監査は公共財です。
 - 会計・監査は、すべての市場参加者が利用する公共財としての経済情報を提供しており、国民経済（市場経済）が円滑に機能するために不可欠な社会基盤（社会インフラ）です。
 - 公認会計士は、国民経済の重要な社会インフラを担う会計・監査の専門家としての社会的使命を有しています。

皆さんへのメッセージ（続）

- ・ 公認会計士・試験合格者の活躍フィールドには広がる未来と無限の可能性が 있습니다。
- いまだに公認会計士=監査法人勤務とイメージされる方が多いですが、公認会計士の知識・経験・能力は、監査業界に限らず社会のさまざまな場面で必要とされています。
- 一般企業、官公庁等の組織に属している公認会計士・試験合格者は組織内会計士と呼ばれますが、組織内会計士は、現在1,000人を数えています。

ご清聴ありがとうございました

充実した大学生活を送られることをお祈りします。

**公認会計士・監査審査会
廣本 敏郎**